

蚊一匹生かす一茶やわれは打つ

(枚方市) 衛藤 聰一

暗闇を生きた証の蟬の穴

(小山市) 倉井 敦子

聞きそびれし父母の満州盆の月

(長久手市) 佐藤 昌江

翅無くて飛ぶ夢をみるかたつむり

(京田辺市) 梅澤 宗平

鉦・太鼓幼ら囃す夏祭り

(村上市) 佐藤 直子

廃校の裏の小流れ蛍飛ぶ

(高山市) 直井 照男

蛍飛ぶ郷に二人の余生かな

(天童市) 今田 進

噴水の頂ばかり子は見つめ

(三島市) 高安 利幸

溪流の釣り師一服木下闇

(野洲市) 深田 清志

出目金に家を任せて外出す

(仙台市) 鎌田 魁

【評】第1句。一茶には蚊を詠んだ句が多いが、自分は蚊を打ち殺すだけ。成程。第2句。蟬は地中で7年ほど過ごす。「蟬の穴」は正にその証拠。第3句。私の父母も引き揚げて来てから一切満州の事は語らなかった。思い出す事さえ嫌だったのだ。

知らぬ子が百物語隅に聞く

(大垣市) 大井 公夫

平凡な暮しにいよよ大暑かな

(越谷市) 新井高四郎

草引けばふうふうつたた鳩歌う

(生駒市) 小田原久美子

巖頭に僧衣の如き海鵜かな

(日立市) 加藤 宙

飛入りのカラオケ上手あつばつば

(千葉市) 相馬 晃一

夏風や児手柏の星の実に

(藤沢市) 小堀公美子

百合の花人にそむくも向くもあり

(横浜市) 沼宮内 薫

金山寺味噌かたわらに鮎を焼く

(新座市) 丸山 巖子

千拓のジグソーパズルめく代田

(玉野市) 勝村 博

鬼灯市声をからして呼びこめり

(所沢市) 横内さとる

【評】大井さん。単に語り手が知らないだけなのだろうが、百物語の場だけに妖の雰囲気も。新井さん。「平凡な暮しに」が心にくい。小田原さん。「ふうふう」は呼吸、「つたた」は「痛たた」。近くでは鳩がクルックー。音で描いた一情景。